

秋の気配が色濃くなり、日中もかなり涼しく過ごしやすい季節を迎えました。運動会、中間考査が終わり一段落ついたころには、時間を設けてゆっくり読書をしてみてはいかがでしょうか。この機会にいろいろな本を見てみましょう。

8月(葉月 はづき 秋風月 あきかぜづき 仲秋 ちゅうしゅう)

二十四節気

立秋 りっしゅう 7日 初めて秋の気配が現れてくる頃です。暦の上では秋になるが、実際には残暑が厳しく1年で一番暑い時期です。

処暑 しょしょ 23日 暑さが峠を越えて過し易くなり始める頃です。二百十日、二百二十日と並んで台風襲来の警戒日とされています。

9月(長月 ながつき 紅葉月 もみじづき 秋月 はぎつき)

二十四節気

白露 はくろ 7日 大気が冷えてきて露を結ぶ頃です。朝夕の涼しさがくっきりと際立ってきます。

秋分 しゅうぶん 22日 春分と同じく昼夜の長さが同じになる日です。これから次第に日が短くなり、秋が深まっていきます。

『よるのばけもの』

住野よる 著 双葉社

私がおすすめる本は、住野よるさんの「よるのばけもの」です。主人公の安達は夜になると化け物になってしまいます。しかし、教室に忘れ物をした安達は、クラスからいじめられている矢野さつきに見つかってしまいます。驚くことに、矢野は怖がる様子もなく、にんまりと笑うだけ。また、クラスでの矢野へのいじめでは、安達は積極的に加わるだけでないが、傍観するだけでした。安達はそのいじめの様子を見ていると、また矢野はにんまりと笑うだけ。そんな二人は夜、学校で遊んでいる。安達は彼女にどう思っているのか。学校内での事件を通して描かれる各人物に注目です。また、矢野がにんまり笑うわけは？

(206HR 岡田) (「読書メーカー」というネットサイトを参考)

『活版印刷三日月堂 庭のアルバム』

ほしおさなえ 著 ポプラ文庫

早くに両親を亡くした弓子は、きっかけをもとに祖父の遺した機械を使って小さな活版印刷所の再開することを決意する。訪れる客は何か悩みを抱えていて、そこで活字とことばの温かみに触れて心を解きほぐされていく。この作品では「活字を拾う」という表現が何度も出てくる。

これは「活字」を「もの」として扱う活字印刷ならではの誰かの遺した記憶や伝えられなかった思いを拾い、活字に刷り上げて届ける。こんなの心温まるに決まっている！本が好きで、言葉が好きで、文字が好きになれるから、のんびりと宵の頃に読んでみてください。

(202HR 須美) (本の裏あらすじ参照)

図書館に行ってみよう！

本校図書館にはたくさんの本が並んでいる。読むに値する、値打ちのある本が多い。そこで、まずは図書館に足を運び、ぐるっと回って眺めてみよう。次に、一冊でも借りてみて、読んでみよう。そこからあなたの新しい世界が開けるかもしれない。今日は少し図書館の本を紹介する。(図書研修課長)

1 蛍雪ライブラリー 図書室に入って正面の突き当たりの棚にある。

蛍雪ライブラリーAは、精神を耕し心を豊かにする本で、古代ギリシアの『オイディプス王』からスタンダール、ドストエフスキー、明治日本文学、内村鑑三や新渡戸稲造などが並んでいる。

蛍雪ライブラリーBは、各教科の先生方の薦める本で、例えば

『山中伸弥先生に、人生とiPS細胞について聞いてみた』講談社、2012年

『イングリッシュモンスターの最強英語術』菊池健彦、集英社、2011年

などもある。山中伸弥先生は外科医時代手術が下手と言われたが、今やノーベル賞科学者となった。菊池健彦氏は子供時代忘れ物が多くよく叱られたが、今やTOEICで24回連続満点という凄い人。こういう人々から学ぶことは多いはず。

蛍雪ライブラリーCは、問題意識を深め進路選択に役立つ本。毎年小論文対策も兼ねてリストを更新しているが、そのうち一部を購入・整備している。例えば、

『日本の「私」からの手紙』岩波新書、1996年

『ドキュメント高校中退』ちくま新書、2009年

大江健三郎はノーベル文学賞の作家。この本は講演なので語り口が平たく、読みやすく、勉強になる。

後者は、高校中退の原因の大きな一つに貧困があることを明らかにし、ではどうすればよいかを多くの人に考えさせた好著。

2 世界の名著・日本の名著（中央公論社の全集）

図書室の奥の部屋の正面の棚の向こう側にある。（電灯のスイッチは、奥の部屋に入って右隅にある。）

世界史や倫理で名前だけ知っている本の中身がここにある！ しかもわかりやすい翻訳になっている。解説もある。例えば『コーラン』や孫文の『三民主義』やガンジーの『自叙伝』やベンジャミン・フランクリンの『自伝』がある。フランクリン自伝を読むとアメリカ草創期の自主独立の精神のようなものを感じ元気が出る。

親鸞や伊藤仁斎など日本の名著もある。勝海舟の『氷川清話』、同じ本に載る勝海舟の父親、勝小吉（夢酔）の『夢酔独言』も面白い。中江兆民『三酔人経綸問答』は自由民権・民主主義を考える好著。内村鑑三『余はいかにしてキリスト教徒となりしか』は自伝。夏目漱石については『文芸の哲学的基礎』『私の個人主義』『現代日本の開化』など文明批評が載っている。柳田国男の『明治大正史世相編』も「日本の昔はこうだったのか、こうして変わっていったのか」とわかって面白い。

3 雑誌・新聞

図書館に入って左手に雑誌が置いてある。『ニュートン』は科学雑誌。9月号は「火星移住計画」「会話するAI」など。10月号は「死とは何か」「AI医療」など。

図書館に入って正面の机の弓道場側に『東大新聞』もある。9月11日号は受験生特集号で、東大生の科目別勉強法、薦める参考書や、東大教員からの各教科の勉強へのエールなどが出ていて、参考になる。

第1回図書館読書会の報告

第1回図書館読書会（図書委員会主催）について報告する。

(図書研修課長)

- 1 日時・場所 平成30年7月5日（木）7時間目、本校図書館にて
- 2 テーマ オー・ヘンリー『最後の葉』（アメリカ、1905年）
- 3 参加者 1年8人、2年5人、3年5人、教員2人。合計20人。
- 4 出た意見からいくつか

スウの最後のセリフはジョンジーへの皮肉なのか。ジョンジーにはプレッシャーになるのか。生命の希望をかける対象物はなぜツタの葉っぱなのか。アイビーには特別な含意があるのか。なぜ女性ペアなのか。無力な女性二人に設定したのか。ペアマンはしぶとい人か、生きるのに不器用な人か。スウの最後のセリフは泣かせる。スウはペアマンの無償の愛に打たれたからだ。ペアマンが残したものは、作品か、与える愛の生き方か。女性は切り替えが早い。「全く女ってやつは...」と作者は苦笑しているのか。医者は「恋人でもいれば」と言うが若い二人は恋人のことなど念頭にない。医者は若い女性を理解しない。ペアマンの変容を描いた作品とも言える。キャンパスに描くのは自己顕示のためだが、ツタを壁に描いたのは無償の愛ゆえだ。一人の人を救ったのはコンクールで入選するよりもかえって真の傑作だ。傑作とは何か。芸術とは何か。コンクールは何のためか。等々。